

読む 七尾

最近七尾に行こうよ！と、周囲に声をかけています。これまで私は地方に行っても用事がすむとすぐに帰っていましたが、七尾市に行くよ、ついつい色々寄り着てしまおうようになりました。

なぜ、七尾のイメージが変わったかという点、七尾市の経済再生を目的とした「産・官・学・民」連携活動に参加してからです。どの地域でも外部から来られた方の滞留時間をいかに引き延ばすかが、そのまちの魅力作りにかかっていると「産・官・学・民」連携で知恵を絞っています。七尾

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

も同じ悩みをもっています。

たとえば、夕方と倉温泉に泊まって料理と温泉を堪能しても、次の日の午前には能登島をへるつと下ライプすると帰ってしまいまう。そうなるとう滞在時間は1日になりません。観光客だけでなく、仕事で訪れたビジネスマンや近郊の方の滞留時間を取り込んで、もう0.5日滞在してもらえれば、温泉以外の所にお金が落とされ雇用も生み、その地域の活性化に結びつくからです。

たとえば、中島の隠れ家のような場所へきた絶品の「そば処きき」と能登島の発のスローライフスタイルを提唱し古い民家を改装した時間を忘れる「能登カフェ」などなど、滞留したくなるお勧め個所が出現して

います。

これらのお店の存在は「産・官・学・民」連携から生み出された成果が見えます。たとえば、七尾市が音頭を取り北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)の近藤先生を中心としたメンバーと地元企業や人で開催されている「のと・七尾人間塾」の開催などがい

ベントを「産・官・学・民」が同じ目標を持ちながら、互いの強い分野を生かして賛同し一緒に活動をしている事で、目に見える効果を生んでいます。

七尾に行こうよ！

藤先生の「JAISTから人間力を高め、各グループに分かれ、「七尾を元気にする」を基盤にディスカッションをし、テーブルごとに発表をしていく形式です。導つ目標の方々が、少人数で率直な意見を交わすことは非常に意義があります。会の終了後には有志で懇親会もセットされていることも多く、会

「産・官・学・民」一緒に各グループに分かれ、「七尾を元気にする」を基盤にディスカッションをし、テーブルごとに発表をしていく形式です。導つ目標の方々が、少人数で率直な意見を交わすことは非常に意義があります。会の終了後には有志で懇親会もセットされていることも多く、会

「産・官・学・民」一緒に各グループに分かれ、「七尾を元気にする」を基盤にディスカッションをし、テーブルごとに発表をしていく形式です。導つ目標の方々が、少人数で率直な意見を交わすことは非常に意義があります。会の終了後には有志で懇親会もセットされていることも多く、会

ISTから人間力を高め、日本企業を元気にする「たのめマーケティング」(「成功の宣言文」)が毎日全国に発信されるので、参加されていない方も情報を得て意見を交わす「場」があることも強い効果があります。地域活性化のシナリオを体感している七尾です。